

林木ジーンバンク事業の対象及び進め方

目的と対象

主要樹種の育種素材の補完

(スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツ、アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツ、リュウキュウマツ)

有用樹種の新需要の創出への貢献

(ケヤキ、ミズナラ、クヌギ、シラカンバ、イチイ、クロモジ、ホオノキ、キハダ等)

脆弱な希少遺伝資源の保全

(オガサワラグワ、ヤクタネゴヨウ、ヒメコマツ、ヤエガワカンバ等)

ニーズ把握

顕在・潜在ニーズの収集・分析と優先度により遺伝資源の取り扱い方を類別

・多様な品種開発への対応

・潜在的な利用価値の掘り起こし

・絶滅リスクの把握

(育種事業、林業関係機関、異分野機関等との連携強化)

事業の進め方

「生物資源」*の探索・収集

・品種開発に直結するもの

・新需要の創出に必要なもの

・緊急避難的保存が必要なもの

増殖・保存
(生息域外保存)

・新規収集した生物資源の保存、林木育種アーカイブの構築
・高度な研究材料の創出
・微少な栄養体での長期保存

特性評価

・ニーズに沿った特性評価

・特性評価項目の検討、新たな特性評価技術の開発・導入

・保全に必要な技術の開発

「情報」の探索・収集

・生息域外保存の必要性が小さいもの

・生態系内での保存に適したもの

・将来のための遺伝資源の保存

「情報」の分析・蓄積

・生息域内(集団内)での保存・動態情報

・地理的な分布域での保存情報

・必要時にアクセスできる情報

事業成果の社会への還元
(Gene Bank for Society)

・「生物資源」の配布
・「情報」、「技術」の提供
・事業成果の発信

遺伝資源情報のネットワーク化

*「生物資源」: 成体、種子、花粉、DNAの総称